



# 農場を守るための心構え

農場経営において、自発的に生産性を守ろうとする意識は、安定的に経営を継続するうえで非常に重要な事です。外からの脅威を防ぎ、農場内で発生する脅威を最小限に抑える事。それについて全従業員が共通認識を持ち、意識して取り組む事が事業継続には必要です。

養豚研究室

## なぜ、自発的に守らなくてはいけないのか

家畜伝染性疾病の発生予防・まん延防止を図るため、2020年7月1日に家畜伝染病予防法が改正されました。当研究室は、以前より防疫ルールの対策を徹底しておりましたが、今回の改正を受けまして、全豚舎の出入口に踏み込み消毒槽を設置しました。更に手指消毒の器具を追加で設置するなど、防疫の一層の強化を実施しました。また、農場に持ち込む物品や資材などは、量が少ない場合でも1週間前に書面にて確認しています。薬剤による燻蒸消毒を基本とする、徹底した外部からのリスク排除に努めております。

農場経営は、資材の納品、設備の修理など、外部とのかかわり合いなしでは運営できません。全従業員で、守るべき防疫ルールの順守を実行する事ができなければ、外からの脅威を防ぐ事ができません。

## 生産性維持のための要素は関連している

農場内では生産性を維持するために、継続的に良好な環境を保つ努力が必要です。農場は、多くの気をつけるべき要素が鎖のようにつながって、初めて1つ

の輪になり、環境が維持されます。その中で、豚舎にかかわる要素の1つである電気関連について記載させていただきます。

近年の農場では、洗浄や消毒装置の使用、空調や給餌、除糞作業などの自動化により、電源関係の保守の重要性が、非常に大きくなってきております。電源関係のリスクを無視してしまうと、停電による豚の急死事故や、漏電火災など甚大な被害が出てしまう事は容易に想定できます。漏電の原因となる箇所は、ほこりのたまりやすい場所であるコンセントのプラグ(写真1)、配電盤の内部(写真2)、普段目につかない場所(ネズミの隠れやすい場所や通り道)とされております。そのため、漏電対策として、定期的な清掃や検査作業(漏電検査で使用する絶縁抵抗計を使用)、漏水箇所(屋根からの浸水)の確認、ネズミや害虫駆除(トラップや防鼠剤、防虫剤を使用)が推奨されます。

## 農場を守る意識を持つ

このように、電源という農場の1つの要素を取り出すだけで、関連した項目が多くかかわってきます。これからは自分の農場を守るために、農場の内外へ関心を持ち、その対応を行う事が大事になってきます。そのためには、全従業員が他の部門の仕事として任せたり見逃したりするのではなく、課題と原因に向き合おうとする気持ちが非常に大切で、それによって農場を守る意識を高く保つ事ができます。

また、清掃や点検は手間がかかりますが、その手間を惜しまない事は、結果としてコスト削減につながります。清掃が行き届いているところは事故が少ないといわれておりますので、実践を心がけてください。

写真1. コンセントのプラグ



写真2. 配電盤の内部

